

# 茶

二年

画数 9  
筆順

茶 茶  
チャ・サ

成り立ち



「茶」は「人がのむためにさいばいする「チャ」という木」をあらわしたもので、これと「サ」とをくみあわせて「チャ」というのみのものをつくるための木の「はっぱ」をあらわしたものです。

「茶」は、茶の木の「しんめ」や「わかば」をつんでむし、かんそうさせてつくりまします。これを茶器に入れ、ゆをそそぎ、そのゆをのみますが、この「ゆ」のことも「お茶」といいます。

この「ゆ」のいろは「かつしよく」ですが、このいろのことを「茶いろ」といいます。

使い方

▽お茶をのむときに、お菓子をたべると、お茶がとてもおいしいそうです。それで、お菓子のお茶菓子というのだそうです。お茶といえたいいてい緑茶のことですが、紅茶やウーロン茶などもあります。

熟語例

▽緑茶（お茶のはの緑のいろをうしなわなないように作ったお茶で、煎茶、抹茶などがあります。）

▽煎茶（煎じてのむお茶といういみのことばで、ふつうのお茶のことです。）

▽抹茶（粉末〔粉〕じょうのお茶のこと。うすてひいて作るので「ひき茶」ともいいます。）

▽紅茶（煎じたときのいろが紅いろをしているお茶のことです。）

▽喫茶（お茶をのむこと。「キツチャ」という人もあります。喫茶店はお茶をのむお店のことです。）

▽鬼も十八、番茶も出花（番茶はつみのこりのはで作った、ひんしつのはるい煎茶のこと。鬼でもわかいときは美しく見られるし、番茶でも煎じたては、かおりもよくて、おいしくのめます。）

# 昼

二年

画数 9  
筆順

昼 昼  
チュウ

成り立ち



もとの字は「晝」で、「晝（画2画）」のいみの「晝」と、「日」とをくみあわせた字ですが、いまの字は、寸（およそ三・三センチメートル）の十ばいのながさをあらわした「尺」と、お日さまが上がったいみの「旦」とをくみあわせた字です。

「旦」が「日」が上がったばかりの「あさ」をあらわしているのたいいて、「昼」は、「日」がたかく上がった「ひる」をあらわしたものです。

「もとの字は、「日の見えない夜」と画した「ひる」という意味の字で、「晝（画）」と「日」との会意字である。」

使い方

▽昼間は、よくはれていたけれど、夜になって雨がふり出しました。

▽白昼、○○ぎんこうに、ごうとうがおし入りました。

▽ふつうのどうぶつは、昼かどうして、夜はねむります。でも、昼のうちねむっていて、夜になるとかどうするどうぶつもいます。

▽昼ごはんをたべたら、きゆうにねむくなりました。おなかがいっぱいになると、ねむくなります。でも昼間は、べんきょうしなければいけないので、ねむい目をこすって、がんばりました。

熟語例

▽昼間（昼の間。日中）

▽昼夜（昼と夜。また、昼も夜も、といういみにもつかえます。このばあいは、まる一日、といういみになります。）

▽白昼（真昼）

▽昼下がり（真昼をすこしすぎたころ。だいたい午後二時ごろのことをさします。）